

JACET関西支部 2023年度 第2回支部講演会

The JACET Kansai Chapter 2nd Lecture Meeting of the 2023 Academic Year

Title: Shadowing for Listening / Speaking とその実践

Shadowing for Listening / Speaking and Its Practice

Lecturer: 門田修平 先生 (関西学院大学)

星原光江先生 (京都ノートルダム女子大学) 森庸子先生 (関西大学) 、

村岡有香 先生 (聖学院大学) 伊藤佳世子 先生 (高野山大学)

Shuhei Kadota (Kwansei Gakuin University)

Mitsue Hoshihara (Kyoto Notre Dame University), Yoko Mori (Kansai University)

Yuka Muraoka (Seigakuin University), Kayoko Ito (Koyasan University)

Date: Saturday, October 21, 2023, 15:30–17:00 **Venue:** Online (Zoom)

Fee: JACET会員・非会員共に参加費無料 ※事前申込要。

Free for both JACET members and non-members. ※Need to preregister.

申し込みサイト : <https://forms.gle/GagHHHi1Zz4zBRjZ9>

Planning: JACET関西SIG リーディング研究会 (Reading)

(Photo : Kwansei Gakuin University)

<https://www.kwansei.ac.jp/index.htm>

講演概要

日本人にとって、英語は日本語との言語距離が最大のCategory 5で、最低でも2200時間、習得にかかると言われる（英語母語話者にとっての外国語学習困難度のサイトを参照：<http://www.effectivelanguagelearning.com/language-guide/language-difficulty>）。その中で、効率的な外国語習得を達成するポイントが、「インプット理解」「プラクティス」「アウトプット産出」「メタ認知モニタリング」、すなわちI.P.O.M.で、シャドーイングの学習タスクはこれらの4つを支えることが理論的・実証的に明らかにされつつある（門田, 2018; Kadota, 2019）。本シンポジウムではこれらのうち、特にシャドーイングのリスニングやスピーキングへの効果について、これまでの研究成果をもとに検討・考察する。

For Japanese, English is in the largest linguistic distance (Category 5) from their first language, and is said to take at least 2,200 hours to learn (see the site on foreign language learning difficulties for native English speakers: <http://www.effectivelanguagelearning.com/language-guide/language-difficulty>). In this context, the key to achieving efficient L2 acquisition is to focus on input comprehension, practice, output production, and metacognitive monitoring (I.P.O.M.), and it is now clear theoretically and empirically that the learning task of ‘shadowing’ supports these four points(Kadota, 2018; Kadota, 2019). This symposium will examine and discuss some of these, particularly the effects of shadowing on listening and speaking, based on previous research findings.

▶ 使用言語は日本語です。

▶ This lecture will be given in Japanese.

☞ For more information, please visit the JACET Kansai Chapter Website <http://www.jacet-kansai.org>

報告①：「定型表現（フォーミュラ連鎖）の習得のためのプラクティス：

シャドーイングの可能性」（星原 光江 先生）

小学生の英語学習において、児童は定型表現の英語を聞いて繰り返すことで、徐々に言葉の使い方を学んでいく。このプロセスによって、習得した定型表現を自動的に使用する能力が向上し、言語スキルが発展し、流暢なコミュニケーションの基盤を築いていく。日本の小学校レベルにおけるスピーキング能力に関する実践研究を体系的に分析した結果に基づいて、英語学習における定型表現（フォーミュラ連鎖）の重要性に焦点を当て、その習得を促進する効果的なアプローチとしてシャドーイングの可能性を探究する。定型表現の反復練習が英語スピーキング能力向上に与える影響や、シャドーイングが流暢なコミュニケーション能力の向上にどのように寄与するかについて報告する。

報告②：「シャドーイングとリピーティング：効果の検証」（森 庸子 先生）

リスニングとスピーキングの2つの活動の間に、何らかの模倣的演習を挿入すると、スピーキング演習は質量ともに向上すると考えられる。しかし、限られた授業内で模倣的演習を効果的に導入するには、様々な演習法の特徴と効果を比較検討する必要がある。森(2023)では、2秒以内の短い英語音声では、リピーティングの再生率の方が高かったが、2秒を超えた音声や新出語では、シャドーイングの再生率が上回った。さらに、弱化した機能語の連續は、どちらの方法でもうまく再生できないことがわかった。これらの結果に加え、本発表では最近行った授業内へのシャドーイング演習の導入結果を報告する。具体的には、リスニング教材についての意見を述べた学習者の英語が、約20分のシャドーイング演習の前後でどのように変化するかを検討した。その結果、授業へのシャドーイング演習導入の利点とともに、課題や留意点も示唆された。

報告③：「スピーキング能力育成のためのシャドーイングの実践研究」

(村岡 有香 先生)

これまでの全国学力調査の結果からも示唆されるように、日本の英語教育の長年の課題は、スピーキング力の育成である。スピーキングの向上策として、シャドーイングの効果に焦点を当て、2015年より実践研究に取り組んできた。現在、シャドーイングの教材、トレーニング方法、そしてスピーキング力の評価方法分析方法に着目して研究を行っている。これまでの研究の結果、次の2点について明らかになった：① シャドーイングの練習により、シャドーイングの技術が向上する、② シャドーイングの練習により、話すスピードが向上する。これらの結果に基づき、シャドーイングの具体的なトレーニング方法、スピーキングテストの種類、スピーチデータの多角的な分析方法について報告する。

報告④：「大学・高校におけるシャドーイング授業実践」（伊藤 佳世子 先生）

「英語4技能向上プロジェクト」を目的とした公立高校のプロジェクトのために、高等学校で使用しているテキストからセンテンスや英語独自の「詰まる音」「消える音」「変化する音」などの語句を抽出し、シャドーイングを通してどのような語句が聞き取れないのかを調査し、その結果からシャドーイング指導を実践することになった。対象は公立高校1年生320名、2年生360名である。この調査にはもうひとつ目的があった。第一に大学生になってもシャドーイングで聞き取りにくい語句があるが、それはどの段階から発生しているのかを知ることである。この調査の分析結果から、高等学校と大学におけるシャドーイング指導の実践例を紹介する。